

## 清流のほとり

令和8年1月9日(金)発行 園長 律田 将美 寄 松田

## 前向きさから生まれる考える力 ~終業式の話から~

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑



12月24日の終業式に、日本の伝統的な文化にふれるというねらいで、自分が小学生の時に夢中になったコマ回しの話をしました。昨年度は凧作りの話をしたのですが、ねらいは同じです。

凧の話を復習すると…

小学校の冬休み、毎年挑戦していた凧作りが5年生でやっと成功し、手づくりの和凧が風に乗り空高く舞い上がったこと、凧糸を買い足しながら糸をどんどんの伸びし、凧が山の頂上に届きそうだったこと、その時途中の結び目が切れ凧は山の向こうに消えていったこと、それでも成功した満足感、喜びが残ったこと…。

子どもたちが、一生懸命聞いてくれたことを思い出しながら、今年度は第2弾、コマ回しのお話でした。



私が子どもの頃のコマ回しと言えば、材木屋さんで売っているコマでした。今のコマよりかなり大きく、直径15cmほどあったでしょうか。無垢の木に鉄の芯を入れ込んだ武骨なものでした。しかし、今売られているコマよりは重量があり、じょうずになるとダイナミックに回り、友だちとその腕を競い合ったものです。

ルールも今考えると、夢中になる要因のひとつでした。前の対戦で一番早く止まってしまった人から先に投げるきまりでした。当然、最後まで回っていた人は一番最後に投げます。それだけでもアドバンテージなのですが、もっと子どもたちを夢中にさせたのは、後から投げる人は、先に回っているコマにぶつけることができるのです。

相手のコマをぶつとばした快感から、誰もが最後に投げる位置をねらって創意工夫、練習を自分なりに積み上げていったものです。

ある日友だちにぶつけられたコマに、ひびが入ってしまいました。今でしたら買い替えるという手がありますが、昔の子は、それをどうするかから考えます。

私は父のアドバイスを受け、そのコマを水につけてみました。すると木が膨らみ、割れた部分がぴったりとくっつきました。おまけに水で重さを増したコマは、友だちをよせつけない最強のコマとなりました。

正に、ピンチをチャンスに変える経験でした。

現代の子がなかなかできない体験を、松田幼稚園の子どもたちは、しています。その証拠に、コマが割れて悲しんでいる当時の私に、様々なアイディアを出し、アドバイスをくれました。終業式のような大きな集まりの中でも、たくさんの子が手を挙げ、自分の考えを教えてくれる姿にとても感動しました。幼稚園での日々が、そのように前向きに考える姿を育てているのだと思い、子どもたち、そして職員に感謝の気持ちがまた更に湧いてきた終業式でした。

3学期も、前向きさから考える力を育てていきます。

